



私たちが伝えて来たことを 次の世代に伝えて欲しい

独鈷囃子保存会会長 高橋 貫治さん(向田)

ますが、中学生になると部活動が忙しくなるのでやめる子が多くなります。それでも毎年毎年、小さい子たちに独鈷囃子を教えて20年以上になりました。

そうしているうちに高校生や社会人になって再び戻ってくる子もいて、再び本格的に民謡をやったり、スタッフとして我々に協力してくれたりするようになりました。何年も続けてきたので、やっと次の世代につながったのではないのでしょうか。

好きだから続けられた

子供たちが民謡をやるようになったのは、独鈷囃子のけいこを続けていたある日、1人の子が「民謡も教えてくれないかな」と言ったことが始まりでした。民謡も本格的に練習をするとなると時間が足りなくなるので、学校に子供を迎えに行った車の中でカラオケをバックに車内で練習させながら帰ってきたなんていうこともしょっちゅうでした。

今まで続けてこれたのは、独鈷囃子や民謡、そして子供たちが大好き

だということが第1ですね。そして私の妻の協力も大きかったです。

芸事の世界では師弟関係が大変厳しいですが、今の子供たちにそんな関係を求めても無理です。粘り強く、長い目で見る必要があります。

次世代に伝える指導者に期待する

私は唄が主ですが、踊り、太鼓、三味線、笛などそれぞれ指導者がいて、みんな一生懸命です。若い世代がこうやって後継者として育ってきたことを、みんな喜んでいます。彼らは、私たちが伝えてきたことを、きっと次の世代に伝えてくれるでしょう。これからは社会に出て仕事をすることはもちろんですが、同時に独鈷囃子や民謡を指導する後継者になって欲しいし、なってくれると信じています。

私もそろそろ年なので、出来れば独鈷囃子保存会の代表は次の世代に渡さなければならないと考えています。でも、民謡もお囃子も好きなので、一生離れることはないでしょうね(笑)。

活動の拠点が無かった時代

私が独鈷囃子に関わるようになったのは昭和30年代後半からでしょうか。仲間と好きな民謡をやりながら独鈷囃子もやってきました。けいこはもっぱら夜なので、音に対する苦情が多く、特に太鼓は響くので嫌われました。だから練習場は、川沿いの建物や青年団の会館、コミュニティセンターなど、何年も場所を転々とししました。

その後、民舞伝習館が出来て、この場所に落ち着きました。初めて伝承の拠点が出来たと感じました。

子供がとても少ない時期もあった

今年は、保存会に入ってきてくれた子が比較的多いですが、3人ぐらいいまで減った時期もあって、「この先どうなるのかな」と心配しました。小学生のころはみんな来てくれ

でも、子供たちを見ていると、自然に伝わっているような気がします。後継者として立派に育った若者たちにも、師匠や応援する地域の皆さんから、ふるさとへの思いが伝えられているのではないのでしょうか。

独鈷囃子を経験した子供たちが大きくなって、いつかこの地を離れたとしても、いつでも心ふるさととのイメージを持って

独鈷囃子の伝承は、ふるさとそのものを伝えることではないかと感じました。

独鈷囃子のルーツとも言える浅利氏、独鈷大日神社の伝説とダンブリ長者物語、これらの舞台となっているこの土地に暮らして来た祖先たちが、私たちに伝えて来たのが「独鈷囃子」です。決して独鈷囃子の姿や形のみが伝われば良いのではなく、これらすべてが「我がふるさと」として伝わって欲しいものです。

伝えたいものは、 私たちのふるさと



独鈷囃子のペナントには浅利氏の紋丸の中のみんが表示されています。

いて欲しいと思います。そしていつか必ず帰って来て、独鈷囃子の輪の中に戻って欲しいものです。

皆さんもぜひ一度 おいでください

浅利氏の歴史は、広く新大館市にも関係が深く、郷土博物館にも関係する様々な展示があるようです。

独鈷大日神社の隣にある「民舞伝習館」には、独鈷大日神社の伝説に係るものや、浅利氏ゆかりの品々も展示公開しています。

また、周囲には史跡散歩コースもありますので、皆さんもぜひ一度、おいでください。



※民舞伝習館に関するお問い合わせは、☎56-2312まで